

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成21年10月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3990800033
法人名	社会福祉法人 清和会
事業所名	グループホーム あんきな家
所在地	〒787-0336 高知県土佐清水市加久見1464-279
自己評価作成日	平成21年8月4日
評価結果市町村受理日	平成21年11月2日

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成21年8月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3990800033&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

私どもの事業所は、在宅に近いサービスを目指しており、日々の生活の中にも、居室の掃除、洗濯干しや整理、畑作業、男性利用者には得意の魚のさばきなど、利用者のこれまでの生活が自然に継続され、日々の会話にも利用者の昔ながらの愛称で声かけするなど、和やかな雰囲気づくりに配慮しています。また、園内行事は、地域の住民の方の参加も得て、併設のデイサービスセンターや小規模多機能型居宅支援事業所と合同で行い、相互の交流を図るほか、地域の景勝地へのドライブなど外出支援も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は小学校跡を利用し、法人が経営するデイサービスセンター、小規模多機能型居宅介護事業所が併設され行事を通じて相互に交流しているほか、敷地内の体育館は地域の避難場所として指定され、運動場を地域の行事に提供するなど、高齢化が進む地域福祉の拠点的な役割を担い、地域と密接に連携できる環境におかれている。日々の生活支援では、家庭生活の延長線としての取り組みを目指し、また、近隣の恵まれた景勝地にドライブするなど日々の生活に変化をつけながら、利用者と職員がお互い喜びを与え、与えられる関係づくりに努めている。今後とも、法人の地域連帯の理念を基本に地域に溶け込む努力を継続し、発展していくことが期待される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>職員は事業所の理念「仲良く・楽しく・けじめのある仕事」を共有し、実践に努めている。</p>	<p>母体法人の理念である地域連帯を基本に、事業所独自に利用者の人格を尊重し、能力を引き出し、笑顔や笑い声に満ちた生活を支援する理念をつくりあげ、職員間で共有している。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日々の散歩時に近隣の方とのあいさつや、近隣の子供たちの訪問を受けている。また、近隣農家から野菜をいただいたり、年1回の地域をあげての交流会には場所を提供し、事業所としても参加している。</p>	<p>事業所の行事にも地域住民の協力や参加が得られている。また、日々の散歩では地域の人たちと挨拶を交わし、野菜をいただいたり、子どもたちの訪問を受けるなど、日常的に地域住民と交流している。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>当事業所が災害時の避難場所となっており、最低限の布団や水分等を確保している。 季節ごとの行事には地域に声掛けをして参加していただくようにしている。</p>	/	/
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に1回、必ず開催し、事業所の行事や日常生活の取り組みなど報告しながら助言をいただいている。改善事項があれば必ず改善し、実施内容を報告するようにしている。</p>	<p>会議では事業所から活動状況を報告し、話し合いが行われているが、委員の意見などの記録が議事録として残されていない。</p>	<p>運営推進会議は第三者の立場から事業所の運営状況や改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得る貴重な機会であるため、評価結果や課題についても報告を行うとともに、委員から出された意見等は記録として残しておくことが求められる。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者様に最善の状態に対応できるように、必要に応じて市役所の方にも助言などをいただきながら進めている。小学校跡を事業所としており、市からも地域での有効活用の計画や支援を受けている。	事業所の運営やケアについて報告し相談している。また、法人が「あったかふれあい事業」の助成を受け、要支援者や学童保育の受け入れ等を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初から拘束をしないケアを目指し、マニュアルや拘束禁止項目の確認など、職員に徹底し、日々の生活のなかでも常に確認をしながら取り組んでいる。	「尊厳を損なわない基本マニュアル」や「身体拘束に当たる行為」を作成し、職員間で徹底し拘束を行わないケアに取り組んでいる。利用者の帰宅願望や外出傾向を把握し、外出した場合はさりげなく後方から見守るなど、支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待防止に関する研修等を受け、日々のケアのなかで話題に取り上げ、職員間で注意し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護に関する研修を受けている。今後、拘束禁止、虐待防止、権利擁護に関する内部の勉強会などを行い、サービスの向上に活かしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の相談があった場合は、事業の概要や手続き等、管理者から十分説明を行い、ご家族にも十分納得、理解を得て、署名をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や、不満などは特にありませんが、問い合わせ等があった場合は、迅速に対応させていただく。	家族同士が集まる機会として食事会を開催するなどの工夫をしている。今のところ家族等から苦情や不満は出ていない。意見箱は設置されていない。	家族は、身内が世話になっていることから意見や要望を出し難いことを理解し、意見箱の設置や家族同士で話し合う機会を設けるなど、意見や要望が気軽に出せる環境づくりの工夫を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回全体会を持ち、意見交換を行い職員間のコミュニケーションは勿論、事業運営についての話し合いを行っている。また、必要時には随時会を開催している。	毎月の職員会で職員の意見や提案などを聞く機会を設け、運営につなげていくようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用し、評価と職員の自己診断等に基づき話し合い、勤務状況の把握や向上心をもって働けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己啓発研修を基本に、希望に沿って勤務割を見直すなど配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2カ月に1回、地域のグループホームとの連絡会を持ち、意見交換を通じてサービスの質の向上につなげている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談があった場合、本人に安心感を持っていただくよう、会話の中でその思いを受け止めるようにしている。また、家族からの情報も踏まえ関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス内容の説明は勿論、家族の要望や家族からの本人の情報を必ずお伺いするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、本人、家族の要望に応える利用可能なサービスや相談機関の説明等を行い他機関と調整しながら、今後必要と思われるサービスについて意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に暮らす者同士、日常生活全般をともに行き、助け合っていく関係を築き、日々の介護に当たっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前や入居後も本人や家族の情報を得るように努め、本人との連絡や行事への参加の協力要請など、本人と家族のつながりを支えていくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	上記と同様に対応をしつつ、日々の生活の中で、必要に応じて自宅付近に一緒に行き、近隣者の方とコミュニケーションをとり帰って来るなどの対応を行う。	自宅が事業所に近い利用者が多く、併設のデイサービスセンターに通う知人との面会や通院時に知り合いとコミュニケーションをとるなど、折に触れて馴染みの関係が続けられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は日々の生活の中で、利用者同士の会話の架け橋となるよう気かけたり、人間関係を把握しながら孤立することのないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や手紙で事業所の近況報告を行うなど、いつでも相談しやすい環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活のなかで、利用者一人ひとりの希望等の把握に努め、困難な場合は家族等から情報を得るようにし、職員会等で話し合いケアにつなげている。	入居時の利用者の全体像について解りやすく項目別に整理し職員間で共有するとともに、日々の会話や家族、知人から情報を収集するなど意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などから、これまでの利用者が日課にしていたことや、仕事など経験を把握し、日々の支援に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の生活ぶりや心身の状況について把握し、業務日誌、引継ぎノートにより職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人の希望、意向を重視しながら、家族の意見や担当職員の気づき等を踏まえ、話し合って介護計画を作成している。	利用者1～2名の担当制としており、計画作成者を中心に担当者会議で利用者の状態に応じたプランを作成し、家族の同意も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録で情報を共有しながら、職員間で話し合い、介護計画や実践に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>事業所の都合でなく、利用者の生活リズムに合わせた支援や、家族に代わって通院の付き添いをするなど、利用者、家族のニーズに必要性があると判断した場合は即座対応するようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>現在、地域資源について活用頻度は少ないが、地域の自治体の行事などには率先して参加するようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族が以前から受診している病院を希望する場合は、引き続き受診できるよう支援している。</p>	<p>利用者、家族の希望するかかりつけ医に継続して受診するよう支援しているが、受診結果等について家族と事業所の情報共有が十分でない。</p>	<p>かかりつけ医の受診に当たっては、主治医の問診に答えたり、受診結果に応じた支援が求められるため、些細なことでも家族と事業所が情報の共有を行い、利用者を共に支えていく取り組みを期待したい。</p>
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>現在、事業所に看護師を配置していないが、協力医療機関と密に連絡を取り、必要であればすぐに受診介助を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換は入退院時は勿論、入院中、退院後も常に連絡を取り、利用者の状態把握や医療機関との関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者に状態の変化があった場合は、早期に家族と連絡を取り、主治医と相談し病院に連れて行くようにしている。	重度化した場合の対応について、事業所の方針が作成されておらず、利用者、家族、医療関係者との話し合いが行われていない。	重度化した場合に、事業所で出来ることを見極め、医療機関との連携などを盛り込んだ指針を作成することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の応急措置等は、管理者の指導のもと行っている。防災訓練時に救命救急訓練を行っているが、今後も定期的な職員全員の応急手当等の訓練を検討していく。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災訓練・避難訓練を消防署協力のもと行っている。また、災害時の地域の避難場所として指定されており、非常用備品等の用意をしている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同の避難訓練を行っているが、地域住民の参加は得られていない。なお、事業所は小学校跡にあり地域の避難場所として指定されている。	法人理念や事業所の避難場所指定などの立地環境等から地域連帯の素地はできているが、災害時に地域住民の協力が欠かせないので、地域の自主防災組織や運営推進会議を通じて、地域住民に避難訓練への参加を呼びかけ、災害時の協力体制を築いていくことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが常に気をつけ、利用者は人生の先輩であるということに敬意を払い、職員間で注意し合うことを徹底している。	「尊厳を損なわない基本マニュアル」を作成し、職員に周知徹底を図っている。日常の利用者との会話では、本人、家族の同意を得て入所前からの愛称を用い、親しみと敬意を払う姿勢を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、さりげなく希望、要望を聞きながら、利用者の経験や能力を発揮して、その人らしい生活が送れるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けのタイミングを見計り、体調や気分に応じて環境を整え、一人ひとりの生活リズムを大切にし、その人らしく過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の気持ちを大切に衣類を選んだり、馴染みの美容院に行くなどの支援をしている。また、状況に応じ訪問理容などの協力依頼をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を聞き、メニューに取り入れ、利用者のできることを職員と一緒に調理したり、片付けをするなど、食事の時間を和やかに楽しめる支援をしている。	利用者の希望を聞き、週2回の食材の買い付けも利用者と一緒にしている。また、魚料理は利用者が行うなど、これまでの経験、能力に応じて食卓の準備や片付けをしている。職員もさりげなく介助しながら一緒に食事をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は利用者毎に把握するとともに、水分の形態についても利用者の状態に合わせ、トロミをつけたり味の工夫をしている。また、栄養管理については事業所内調理委託先の管理栄養士が行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず行い、一人ひとりの力に応じた口腔ケアの支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の状況に応じて、出来るだけオムツ使用はせずトイレで排泄するよう支援している。トイレ誘導が必要な利用者については、さりげなく利用者を確認しながら1時間半を目途に行っている。	夜間のオムツ使用者は1名で、紙パンツと尿取りパットの使用者が殆んどである。定時にトイレ誘導を行うなど一律の支援になっており、ケアプランに沿った工夫がみられない。	排泄チェック表をもとに一律の支援にならないよう、一人ひとりの排泄パターンから支援のあり方を検討することが望まれる。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、主治医の指導を受け水分摂取や生活のなかでの運動など、対応と予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日利用者の希望を聞き、体調にも配慮しながら入浴の支援をしている。	毎日入浴する利用者や概ね週3回入浴する利用者など、体調や入浴習慣を考慮した入浴支援を行うとともに、体調の悪いときは清拭を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援して いる	利用者が休みたい時は、いつでも就寝し たり、横になってくつろげるよう体調面も 考えながら、部屋の空調管理に配慮してい る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている	服薬の開始や薬変更時には、業務日誌や 引継ぎノートで職員全員が共有して対応す るよう徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 せるように、一人ひとりの生活歴や 力を活かした役割、嗜好品、楽しみ ごと、気分転換等の支援をしている	野菜作りや洗濯、掃除、調理等、その中 でも得意なことや好きなことを聞き出し、 日々の生活で楽しみを見つけていくよう、 職員が工夫しながら支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協力しなが ら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って、散歩や買い物支 援を行うほか、季節折々の花見や行事の見 学、景勝地へのドライブなど、家族等の協 力も得て外の空気を味わう支援に取り組ん でいる。	家族の協力もお願いし、車椅子の方 を含め、全員で外出する機会を持ち、 地域の景勝地へのドライブや催し物の 見学を行っている。また、日常的にも 買い物や野菜の収穫など、戸外の空気 に触れる支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひとり の希望や力に応じて、お金を所持し たり使えるように支援している	金銭管理は事業所で行うことを基本とし ているが、利用者の能力に応じて自己管理 や支払いをする場合もあり、その都度職員 が確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人と家族がいつでも電話等により連絡できるよう、希望に応じて随時支援している。また、必要に応じて代理で連絡することもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員のアイデアで、手作りののれんや、装飾品等を利用者と一緒で作成し、家庭的な雰囲気になるよう工夫している。	ソファに座ってテレビを観る、畳の居間で洗濯物をたたむ、食堂で職員と共に食事の準備を手伝うなど、利用者にとって家庭生活の延長にある共用空間となっている。	利用者が居間や食堂で、その時その時を思い思いに過ごすことができるよう配慮されているが、さらに、季節感が味わえる空間づくりの配慮や工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの畳コーナーやソファで、利用者それぞれに自分の空間を作り、一人で居ながらも日常の生活音を聞きながら過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来るだけ自宅ですべての物を持ってきていただき、自宅に居る雰囲気をそのまま事業所の生活につないでいくことができるよう配慮している。	マッサージ器付きの椅子や座り机など、利用者が使い慣れた家具等が持ち込まれ、本人が居心地の良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、専門の方に助言もいただきながら、廊下の既存の手すりに必要に応じて延長できるようにするなど、利用者が不安なく自立した生活が送れるよう配慮している。		

V アウトカム項目			
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
		○	3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

V アウトカム項目			
項 目		該当するものに○印	取り組みの成果
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない